

殺菌剤

〔銅水和剤（フロアブル）〕

## クプロシールド

有効成分：塩基性硫酸銅…… 26.9%（銅として 14.8%）

性状：淡青緑色水和性粘稠懸濁液体  
 毒性：－  
 危険物：－  
 包装：500ml×20本  
 2ℓ×8本

クプロシールドは株式会社エス・ディー・エス バイオテックの登録商標です。

## 〔特長〕

- 有効成分を微細化し優れた効果を発揮する。
- ハンドリング・付着性に優れるフロアブル製剤。
- 作物への汚れが比較的少ない。
- 日本農林規格（JAS）の有機農産物栽培においても使用可能。

## 〔適用病害と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	銅を含む 農薬の 総使用回数
野菜類	軟腐病	1000～1500	100～300 ℓ／10a	－	－	散布	－
	べと病 斑点細菌病	1000～2000					
トマト	疫病	1000					
ミニトマト	葉かび病	1000					
ブロッコリー	黒斑細菌病	1000～2000					
結球あぶらな科葉菜類	黒腐病	1000					
レタス類	腐敗病						
にんじん	黒葉枯病						
	斑点病						
たまねぎ	りん片腐敗病						
葉たまねぎ							
だいず	紫斑病						
アスパラガス	斑点病 茎枯病						
こんにゃく	葉枯病 腐敗病		100～300 ℓ／10a				
てんさい	褐斑病						
ばれいしょ	軟腐病 疫病	1000～2000					
かんきつ	かいよう病	1000	200～700 ℓ／10a				
キウイフルーツ							
もも	せん孔細菌病	500～1000					
オリーブ	炭疽病						
つつじ類	褐斑病	1000	200～400 ℓ／10a	摘採3日前 まで			
茶	赤もち病 ちもち病						
	網もち病 炭疽病				500		

## 効果・薬害等の注意

- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振る。
- 石灰硫黄合剤等アルカリ性薬剤との混用はさける。
- キャベツ、はくさい、レタス等結球作物を対象に使用する場合は、結球期以降の散布は薬害を生じるおそれがあるので、結球初期までに散布する。
- きゅうり等ウリ科作物に使用する場合は、次の事項に十分注意する。
  - (1) 幼苗期は薬害を生じやすいので、生育中期以降に散布する。
  - (2) 高温時での散布は薬害が生じやすく、症状が強くなることがあるので散布はさける。
- ブロッコリーに使用する場合は、花蕾形成期以降の散布は花蕾に薬害を生じるおそれがあるので、花蕾形成期までに使用する。
- かんきつに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用することが望ましい。
- キウイフルーツに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意する。
  - ①発芽期以降の散布には炭酸カルシウム水和剤を加用する。
  - ②過度の連用はさける。
  - ③品種によっては薬害を生じることがあるので、事前に確認してから使用する。
- ももに使用する場合は、開花後は葉に薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害や作物への汚れの有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。
  - 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
  - 使用残りの薬液が生じないよう調製し使い切る。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- [保管]：直射日光をさけ、(食品と区別して)なるべく低温場所に密栓して保管する。

---

農薬登録(登録番号)：エス・ディー・エス バイオテック (23927)、ホクサン (24001)、  
アグロ カネショウ (24002)

販売：アグロ カネショウ、ホクサン